

＜今回の調査で明らかになった主な除草方法のメリット・デメリット＞

	合鴨農法	チェーン除草	紙マルチ田植え機	水田除草機
メリット	・合鴨農法は、中山間地機や比較的経営規模が小さい生産者も導入可能。 ・合鴨は10 aあたり平均10羽の合鴨を導入。雑草以外にもイナゴやバッタ、オタマジャクシなども捕食する。 - また、合鴨は水田に糞をすることから、その糞が有機肥料になる。追肥1回分の窒素肥料分にメリットもある。	・チェーン除草は、中山間地機や比較的経営規模が小さい生産者も導入可能。 ・米糠ペレットの散布と合わせれば、ほぼ除草が可能。また自作でも制作できることから導入費用はあまり掛からない。	・田植えと同時に紙を田面に覆い、遮光して雑草を枯死させる除草方法。隙間がないように敷設できれば、確実に除草ができる。	・水田除草機の導入により、導入効果は高い（10 aあたり労働時間を30.7時間（2016年）から22.7時間（2020）に削減）
デメリット	・カラスやトビ等に狙われ、犠牲になることも。 ・合鴨の管理（餌代等）が必要。 ・合鴨での除草は完璧でないため、最終的には人手の除草が必要。 ・成長した合鴨の処分方法が課題。産廃処理する際、1羽あたり800～1,000円掛かる。また合鴨は焼き鳥屋などにも（200～300円/100g）売却できるが、その際は下処理が大変。	・チェーン除草機は9.5 kgと重いため1日あたり30 aしか除草作業できない。（重労働） ・軽量タイプ（3 kg）でも、1日あたり60 aしか除草作業できない。	・紙マルチは1本27 kgと重い。紙マルチセット時、田植機の旋回時に人力で行う必要があり、体力のある人にアシストしてもらわなければならない。 ・紙マルチの購入費用が掛かる（1.4万円/10 a）	・水田除草機の導入費用は高価（1台あたり400万円代）なため、中山間地機や比較的経営規模が小さい生産者は導入障壁が高い。
画像				